

# 平成 27 年度第 1 回庄原市初任者研修会

平成 27 年 4 月 24 日（金） 庄原市役所 5 階 第 1 委員会室

庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うことを目的に、研修会を行いました。

（参加者：小学校 7 名，中学校 5 名，養護教諭 1 名，栄養士 1 名，主事 2 名）

## 【講話①】 「一步前へ！」

庄原市教育委員会教育長 牧原 明人

【概要】 教職員としての基本姿勢や大切にすること等について、講話を行った。

◆教職員として、学び続け、自ら成長する姿勢が大切である。研修、経験を重ねて行く中で、自分の職務状況を見直していく。失敗しない人はいない、失敗しようとする人もいない、失敗は取り戻せる。教訓を次に生かす。だから、失敗を恐れず、「一步前へ」進むこと。



（参加者の振り返りより）

- ◆「どの子ども伸びたくて、学びたくて仕方がない子ばかり」という言葉が、自分の心に強く残った。失敗を恐れず一人一人の子供と向き合おうと思った。
- ◆教員という仕事は、子供たちがいてくれて成り立つ仕事だと改めて感じた。常に向上心を持ち、積極的に学んでいきたいという気持ちが強くなった。
- ◆主事であっても、今、子供たちにどんな力が求められているのかを理解し、子供をみる視点、子供を気にかける姿勢をもたなければならないと思った。
- ◆学習環境の整備等、授業づくりのポイントについて、今すぐできることはすぐに実践に生かしたいと思った。

## 【講話②】 「庄原市教育行政施策について」

庄原市教育委員会教育指導課 指導係長兼主任指導主事 住岡田 浩

【概要】 本市教育行政施策の内容について理解を深めるとともに、各学校において、教育行政施策に基づいた取組が行われていることについて確認した。



（参加者の振り返りより）

- ◆変化の激しい社会にあって、グローバル化、少子高齢化等に対応するための施策であることが分かった。
- ◆教育行政施策に対し、自分の職種の専門性を生かして主体的に取り組んでいかなければならないと思った。
- ◆読書推進に係る施策については、学校司書と連携して進めていきたいと思った。
- ◆芸術教育の充実に係る施策については、授業において生徒たちが豊かな感性をはぐくむことができるよう努力していこうと思った。

## 【講話・演習③】「教職員としての接遇, 児童生徒への対応」

庄原市教育委員会教育指導課 指導係 指導主事 佐々木 孝

【概要】具体的な対応場面の演習やチェックリストによる接遇・みだしなみの自己診断を通して、教職員としての接遇の在り方、児童生徒及び保護者への対応の仕方について考えた。



(参加者の振り返りより)

- ◆チェックリストの記入を通して、今、自分自身ができていることとできていないことが分かった。できていない部分を改善していく。
- ◆来客や電話の応対は、日々の仕事の中で多くある。相手への思いやりを心掛けていこうと思った。
- ◆子供や保護者が何を求めているのかを第一に考えるとともに、早めの対応を心掛けようと思った。
- ◆電話でも来校された場合でも、応対の際は誠意をもち、笑顔であることが大切だと思った。また、学校組織の一員として、日頃から学校全体の情報を把握しておく必要があると思った。